

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193300122		
法人名	合同会社 カーム		
事業所名	グループホームわかくさ		
所在地	岐阜県飛騨市古川町上町459-1		
自己評価作成日	令和2年10月20日	評価結果市町村受理日	令和3年1月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2193300122-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2193300122-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和2年12月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和2年3月に新築オープンする。隣にも同じ系列のグループホームかんまちがあり、馴染みの方々がたくさんいます。かんまち同様、落ちついた雰囲気ホームの創りを目指しています。地域の方との交流を大切にし、入居者一人ひとりがその人らしく暮らしていけることを目指しています。安心して暮らせるよう施設内の廊下はバリアフリーでまた建物の外装も事業者名同様の若草色で分かりやすくしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年3月に開設した事業所であり、同法人が運営するグループホームに隣接している。すでに地域とのつながりがある中でも、開設前に地域説明会や回覧で案内をし、地域との関係づくりに努めている。廊下と食堂兼居間の床は、畳敷きにこだわり、利用者の昔ながらの生活により近づけている。生活の主体は利用者とし、職員は、利用者ができること、やりたいことを行って自分らしく生きられるよう、常に支える姿勢で取り組んでいる。家族も同様に、支える側の一員として位置付けて、互いに信頼関係を作り上げている。職員の笑顔と明るい声が、利用者の元気の源になっていると思わせる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の論理規定に基づき、サービス提供について職員で共有している。	今年3月に開設し、法人の倫理規程の「良質なサービス、人権擁護、安全・清潔への配慮、信頼関係」の項目を朝礼で唱和し、共有しながら具体的なケアにつなげ、その実践を振り返っている。代表と職員が意見交換を重ね、目指している実践を理念にする作業を進めている。	理念ありきではなく、自分たちが目指している実践を理念にしたいため、代表と職員で話し合いをしている段階である。早急に理念を作成し、地域密着型サービス運営の確立に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日には近くの神社まで散歩しています。特に近所に区長・民生委員のかたもみえてお話などもしている。	事業所開設の案内、説明会について地域に呼びかけ、スタートしている。すでに同法人のグループホームが同じ敷地内で運営しており、現在の区長や民生委員は近隣住民でもあり、協力を得ている。現在、新型コロナウイルス予防の為、地域交流を自粛しているが、近隣からは野菜等の差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を書面会議にて実施、ご家族、区長、民生委員さんなどと情報提供しアンケートをとり参加意見を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度の運営推進会議はコロナ感染のために書面会議で実施。アンケートで頂いた意見を職員で共有しサービス向上に役立っている。	現在もコロナ禍にあるため、運営推進会議は書面会議としている。入居者状況、活動報告、事故報告等に併せ、家族アンケートも取り、次の書面会議の際に、アンケート結果と自由記述の意見内容を開示し、意見をサービス向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日常の出来事で分からないことあれば、市の職員に相談等連絡をとっている。	入札から準備、開設まで、行政とは報告、連絡、相談等を密に行い、コロナ禍であったが、無事、開設することが出来た。市は地域雇用を推奨しており、地域からの職員採用に努めている。行政から配信される情報等を見逃さず、運営に反映させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は安全のため夜間のみ。日中については玄関の施錠せず、見守りでのケアを行っている。職員に身体拘束の書類を配布、見直しを行っている。	法人運営の事業所合同で身体拘束委員会を定期的に開催し、身体拘束ゼロのケアを実践している。具体例を挙げ、参加者で原因分析、対策について意見交換し、まとめた事を実践につなげている。ヒヤリハットの発生、原因、対応を職員間で共有し、拘束をしないことで起こるリスク回避にも取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今度の予定として職員が高齢施設における虐待対応研修に参加、研修報告して情報を共有していく。		

岐阜県 グループホームわかかさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県内での研修等あれば今後参加予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、管理者または計画作成担当者が説明を行なって家族が納得していただけるようにしている。また、本人にも契約前にホームを見ていただき不安なく入居して頂けるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご家族にホームでの様子など話をしながら意見や要望を伺っている。電話でも連絡をとり意見等頂いている。	毎月の便りで、写真にコメントを付けて利用者の様子を伝えている、利用者からのメッセージ記入欄もある。感染予防対策として、面会は時間の短縮や駐車場での対面等で、利用者と家族をつないでいる。メールや電話、受診同行時、衣替え時期の来所時等に意見を聞いたり、家族アンケート結果を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時に職員の意見や提案を聞き運営に反映している。またカンファレンス時でも意見出来るようにしている。	管理者も現場シフトに入り、その場で職員の気づきや提案を聞いている。毎月の職員会議や日々の申し送り時にも、ボトムアップの運営体制で、職員意見を尊重している。日勤帯と夜勤帯の連携も良く、職員のチームワークの良さで、働き易い職場環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員ひとりひとり家族の連絡担当をもってもらい責任を持って仕事出来る環境をつくらしている。希望休や有休休暇の配慮もしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修等研修会に参加するよう勤めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度グループホーム協議会に加入。交流会などにも参加して情報を頂きサービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前後に家族と本人と面談、生活面や身体面の困りことなど細かく聞き取りする。またホームの見学などしてもらい環境面などもみてもらう。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で家族と良好な関係を保てるように相談、要望など傾聴する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との面談及び担当ケアマネからの情報を統合し、当初必要なサービスの見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭で暮らしているような環境を作るため食器洗いや食器拭きをスタッフとともに良い関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や美容院などの外出は家族にお願いしています。日頃の面会についてもホームにいつでもきていただけるよう声かけしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の家族に気軽に会いに来てもらえるよう援助している。また地元周辺の馴染みの場所にドライブにも行きます。	親戚や友人の訪問が多くあり、職員は、利用者と共に笑顔で迎え、再来につなげている。希望する馴染みの場所への外出は家族に依頼している。感染予防対策として、面会や外出を自粛しているが、利用者に必要な支援と判断した時は、対策を講じた上で支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やくつろぎの時間など歌詞カードを配って自然発生的に歌を歌ったりしている。食事の配膳片付けなども入居者が率先して行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度、死亡退去された方しかいないが、契約終了後も家族からの問い合わせには柔軟に対応努めている。また別の施設への移動するときは情報を提供する予定。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジ</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの希望はなかなか把握が難しいが少しでも希望に添えるように話しを傾聴する。また家族とも話し生活が充実するように努めている。	入居時のアセスメントを参考に、個別支援計画の土台となる日常生活動作項目の聞き取りで、利用者が望む暮らしを把握している。さらに、利用者の事を理解するために、常にコミュニケーションを図り、家族からの情報を得て、その人の価値観や本人本位の生活支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族より生活歴を聞き情報を把握する。本人からも日々の会話をし安心して生活が出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録から毎日の様子を引継ぎ、本人の心身状態等をスタッフ間で共有、変化を記録に残し現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで本人、家族の思いを実現できるよう話し合っている。	代表がケアマネジャーでもあり、入居時の契約説明から家族と面識がある。利用者が望む暮らしを実現させるために、必要な支援を職員と検討し、利用者主体となる介護計画を作成している。作成後には、再度、家族と意見交換の場を設け、事業所から家族に望むことも伝えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人のつぶやき等を生活記録に残し、スタッフ間で情報を共有している。記録についても重要なことは赤ペンを使用し目立つようにしている。その情報を介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が利用者の居室に泊まることや食事と一緒にできるサービスを行っている。また家族と外出しやすいような雰囲気をつくっている。		

岐阜県 グループホームわかくさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染症対策のため、現在会議形式で行われていない運営推進会議を地元の方を住民の方の意見をとりいれるように開催予定している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族同行により、かかりつけ医へ受診してもらっている。また、看護師が同行できる場合は同行し、日ごろの様子、身体状況等を報告している。往診も受け入れている。	契約時に、かかりつけ医の利用について説明している。従前のかかりつけ医の受診は家族が同行している。往診対応が可能な医師に変更した利用者もある。看護師職員が日常の健康管理に努め、医師と連携を図りながら、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは本人の体調の変化などの気がつきがあれば、看護師に報告し対応している。必要に応じて家族に連絡し、受診をすすめている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は病院へ入院前情報を提供している退院前に院内訪問し、関係者から情報提供を受けている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に 重度化した場合における(看取り)指針についての同意書を家族にいただいている。	利用者と家族に、重度化や終末期対応についての事業所方針を説明し理解を得ている。常時、医療行為が伴う場合、早期に利用者、家族、関係者が話し合い、適切な対応に努めている。現在は、介護度が低く元気な利用者が多いが、看取りを視野に入れた体制も検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の関係機関への連絡方法など見やすい場所に掲示している。玄関にAEDを設置し急変時の対応できるようにしてある。感染予防のため、救命講習受講できないが解禁後には受講できるよう問い合わせはしてある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時などの緊急時連絡網を作り連携できる体制をとっている。	年2回防災訓練を実施し、緊急時の連絡網と隣接のグループホームとの連携体制を整えている。地域の公民館が避難所になっているが、移動の安全性を考えた時、ホームに留まることも考慮し、2階への垂直避難を検討している。備蓄品の備えもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりの声掛けには尊厳を損なわないよう心掛けている。入浴介助などでもできる限り同性介助で行っている。	職員は、生活の主体者は利用者であるとし、残存能力を活かしながら、安心して自立した生活を送れるよう支援に努めている。職員一人ひとりが常に利用者を尊重した声掛けと真摯な態度で接し、入浴や排泄介助は羞恥心に配慮し、同性介助に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを優先し、本人の能力に応じた働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操や散歩など、その日の体調、気分をうかがい、無理なく過ごせるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪が伸びた時などは、家族に連絡し、美容室など連れていってもらおうようにしている。家族が本人の散髪などもされていることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や食器洗い・食器拭きなど入居者が率先して行っている。また食事の盛り付けなども行い家事を楽しまれている。	利用者は、野菜を育て、収穫する作業を主体的に行い、食材にするまでを楽しんでいる。また、地域の店で食材を購入し、野菜の下準備、盛り付け、配膳下膳など、利用者が役割を持って関わりながら、食事づくりに参加している。行事に因んだ特別食や外食の日もある。食前の嚥下体操や食後の口腔ケアの支援も定着している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立をパソコン内に記録しておき、いろんな献立を考えられるようにしている。水分についても記録を残し、しっかりと摂れているのか確認している。食事形態も主治医の指導に従い個別対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアにはスタッフが洗面台の前で見守りをし必要な場合は介助している 夕食後には義歯の薬剤洗浄を行っている。		

岐阜県 グループホームわかくさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	清潔で過ごせるよう汚れ等多くある方についてはパットの確認をし、交換をうながしている。	排泄の自立が出来ている利用者が多く、職員の声掛けや見守りで、トイレでの排泄が習慣化している。布パンツの人やパッド交換を自分で処理する人もある。排泄用品の補充は家族に依頼し、利用者との面会の機会にもつなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作成し、排便間隔を確認している。便秘気味のかたには看護師と相談しながら下剤等使用し様子をみている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	スタッフの勤務や入居者との関係性から入浴日を決めているが、入居者にはその日の体調等聞きながら本人の希望で日時を決めている。また季節を感じていただくため、その時期のものを入れる。	週2回の入浴を基本にしているが、利用者の体調と希望を聞きながら、柔軟に対応している。利用者は、個浴でゆったりと入浴し、職員は見守りながらコミュニケーションを図り、楽しい入浴時間になるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングと居室は自由に行き来、食後や昼寝も自由に行っている。就寝時には巡視をしながら部屋の空調を調節するなど良眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が服薬管理をしているが職員全員が服薬内容、身体状況を把握できるように情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、食事の準備、後片付け・畑仕事等、一人ひとりに役割を見つけ、充実した生活が送れるよう努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には近くの神社まで散歩に出掛けたり、季節に応じて花見などのドライブにも出掛けている。	ホームのミニ農園や、花壇の花の様子を見に行くなど、日常的に外へ出る機会が多く、神社までの散歩もしている。季節の花見や買い物外も行っていたが、現在は、感染予防の為、人との接触を避け、車窓から季節の景色を眺めるドライブに出掛けている。	



岐阜県 グループホームわかくさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金については、個人でお金を持ちたい方は現在ない。家族より希望あればホームの金庫に保管し出納帳にて管理できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば相手先の都合を考え、電話を使ってもらっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除の時間には玄関・扉などは空気・光を取り込んでいる。	廊下と食堂兼居間の床は畳仕様になっており、上履きを履くことなく、利用者の昔ながらの畳の暮らし方に近づけている。大きなカレンダーや時計で、利用者の見当識障がいを予防し、トイレ表示もわかりやすく、手すりの位置も配慮されている。利用者一人ひとりが、共同生活の役割を担い、出来る範囲で掃除を手伝っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置を工夫し、グループ分けができるようにしている 疲れた時などは居室で休んでもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には自宅で使用していた馴染みのものをもってきてもらい使用している。ご家族様の写真なども飾り安心できる空間になるよう努めている。	全室畳敷きの居室であり、ベッドは利用者の状態に合わせた仕様で提供している。整理タンスとクローゼットの設置で広い空間が確保されている。使い慣れた物を持ち込み、家族の写真や趣味の作品等を飾り、居心地よい居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の手すりの高さを少し低く設置し、使いやすいようにしている 居室入り口やトイレにはプレートを設置し自室とわかりやすいようにしている		